

イヌトクガワザサの葉に数本の黄色い縦じまが現われる美しいササを新品種、シマイヌトクガワザサ *S. scytophylla* f. *aureostriata* S. Suzuki と名づけた。

8) シコクザサ *Sasa hirtella* Nakai は1911年に徳島県剣山で採集され、そのタイプ標本はきわめて古く、とくに葉鞘に毛があるかないかが、ながい間の問題であった。中井博士の原記載では葉鞘には全くふれておらず、タイプ標本でも有毛か無毛かの別判がすこぶるむづかしい。もし無毛であれば、それはミヤマクマザサ *Sasa Hayatae* Makino と全く同じものとなる。東京大学や京都大学のタイプ以外の標本や私の手もとの標本などから、タイプではもと葉鞘に毛があったものと想像されるので、シコクザサをミヤマクマザサの変種として、学名を *S. Hayatae* Makino var. *hirtella* (Nakai) S. Suzui と改めたい。

9) 私 (1967) はサヤゲオモコザサ *Sasa omokensis* var. *hirsuta* Koidz. はチュウゴクザサ *S. tyugokensis* Makino と同じと考え、それらをクマザサ *S. Veitchii* (Carr.) Rehder の変種にすると、命名規約の上から学名を *S. Veitchii* var. *hirsuta* (Koidz.) S. Suzuki とした。しかしサヤゲオモコザサは前記のようにチュウゴクザサとは別種であることがわかったので、チュウゴクザサの学名を *S. Veitchii* var. *tyugokensis* (Makino) S. Suzuki と改める。

□ Barnes, J. R. & G. W. Minshall (ed.) : **Stream ecology : application and testing of general theory** 399 pp. 1983. Plenum Press, New York. \$55.00. 1981年に American Benthological Society の主催で行われたシンポジウム「河川生態系における一般生態学理論の立証」の講演録であり、それぞれの講演の題目が章のそれになっている。本書出版の意図は、1) 溪流生態学が一般生態学理論の発展と立証に重要な貢献をしている事実を喚起させる、2) 基礎生態学に関与する溪流研究を紹介する、および3) 溪流生態学が将来進むべき方向を示唆する、の3点にある。「溪流生態学は成年に達した」という書き出しで始まる本書には科学的な力強さが感じられる。この力強さの源は、生態学上重要な項目のすべてが溪流生態系における事例として、それぞれによく論議されているところにある。口頭発表の際の質疑応答による論文内容の修正に加えて、出版物としてまとめる段階で、章を構成する全論文に対して数名による査読がなされたことは、本書の内容の正確さを高める上で大きい力となっている。説明に用いられた図表はオリジナルなものが多く、また1981年までの重要な論文はほとんどが的確に引用されているなど、本書出版に当たっての並々ならない意欲が認められる。しかし、編集努力が各章の取りまとめの段階で終り、シンポジウムで得られた総論的な概念が明確な形で挿入されなかったことは惜まれる。この努力があれば、本書の第3の意図はより明確となったであろう。それにしても、本書の出版が生態学の進歩に大きな貢献をなすであろうことは疑いない。

(関 文威)